

防災気象情報と5段階の災害警戒レベル

令和3年5月より、避難情報の名称が変更となりました。新しい災害警戒レベルを理解し、日頃から取るべき行動をしっかりと確認しましょう。また、身の危険を感じたら、災害警戒レベルにかかわらず、**早めの避難が大切です**。

警戒レベル	気象庁からの情報	発令時の状況	住民が取るべき行動
5 緊急安全確保 避難が難しい場合は少しでも命が助かる行動を	記録的短時間大雨警報 氾濫発生情報 大雨特別警報 など	極めて危険 数十年に一度の強い大雨 	避難を完了 避難していない場合は、直ちにその場から避難してください。避難することでかえって危険な場合は、建物のより安全な場所（建物の上階や崖から離れた部屋）に移動してください。
4 避難指示 速やかに安全な場所へ全員避難	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など	非常に危険 大雨が一層激しくなる 	速やかに避難 避難に時間を要する人は避難を終えましょう。また、逃げ遅れの人が出ないように近所へ声掛けをしながら、安全な道を通って避難しましょう。
レベル4発令前に 全員避難！			
3 高齢者等避難 高齢者、身体が不自由な人、乳幼児などは避難	氾濫警戒情報 大雨警報 洪水警報	警戒 大雨の数時間前～2時間程度前 	積極的な避難支援 避難に時間を要する人が負傷しないよう、避難支援者は配慮するようにしてください。その他の人はいつでも避難ができるよう、最終確認を行いましょう。
2 避難準備 避難場所や避難ルートの再確認を	氾濫注意情報 大雨注意報 洪水注意報	注意 大雨の半日～数時間前 	準備と連絡 必要に応じて、早めの避難をしましょう。親戚や知人とも連携を図っておくことも大切です。
1 情報収集 最新情報に注意し、災害への心構えを高める	早期注意情報 大雨の数日～約1日前	大雨の数日～約1日前 	今後気象状況が悪化する恐れ 台風が近づくなどして、雨や風がだんだんと強くなっています。

「避難」とは「難」を「避」けること。

下の4つの行動があります。普段からどう行動するか決めておきましょう

●行政が指定した避難所への立退き避難

※マスク、消毒液、体温計、スリッパ等は自分で携行しましょう。



●安全な親戚や知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。



●安全なホテル・旅館への立退き避難

※通常の宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。※ハザードマップで安全かどうかを確認しましょう。



●屋内安全確保

- ①から③の「3つの条件」が確認できれば、浸水の危険があっても自宅に留まり、安全を確保することも可能です。
 ※土砂災害の危険がある区域では立退き避難が原則です。
- ①家屋倒壊等氾濫想定区域に入っていない
 - ②浸水深より居室は高い
 - ③水がひくまで我慢でき、水や食料などの備えが十分

